



## 年頭にあたって

代表理事組合長 中村 政昭

令和6年の新春を迎え、組合員ならびにご家族の皆様には謹んで新春のお慶びを申し上げます。

また、日頃より農協事業運営に対しまして特段のご理解とご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年の営農を振り返ってみますと、雪解けが進み天気も良好だったことから播種作業は順調に進みました。小麦においては、干ばつの影響が懸念されておりましたが、日照時間の長さにも恵まれ例年以上の作柄となりました。馬鈴薯についても、干ばつにより小玉傾向ではありましたが、玉つきが良く高収量でした。一方でん菜は、根部に肥大が例年にないと言われたほど順調な生育でしたが、高温多湿により多発した褐斑病の被害や、記録的な猛暑が災いし低糖度での収穫となりました。豆類についても、登熟期間が高温で経過したことから小粒傾向となったほか、葉落ちが緩慢で収穫作業が長期化しました。

酪農畜産においては、デントコーン・牧草ともに平年並みの収量とはなったものの、配合飼料および燃油等生産資材の高止まりが昨年同様に深刻化しております。乳量については、新型コロナウイルス感染症対策は緩和されましたが、生乳生産抑制の状況に変化はなく、期中における飲用乳および乳製品向け乳価は引き上げられたものの、脱脂粉乳の過剰在庫を抑制する対策は未だに継続されたままです。また、畜産では和牛素牛価格および枝肉価格が、物価高に伴う消費の落ち込みから一昨年より大幅に下落しており、乳用交雑種においても同様の下落が見られる非常に厳しい状況です。

さて、令和5年度の農協事業は、昨年11月末時点での仮決算では当初計画を上回る収支が見込める状況となりました。これもひとえに、皆様の営農努力の賜物と深く敬意を表す次第であります。事業年度も残すところあと2か月あまりとなりましたが、さらに誠意努力してまいりますので、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

農業を取り巻く情勢は、国際紛争の長期化や円安による物価高騰から経済状況は厳しさを増し、農業経営に与える影響は計り知れないものがあります。昨年、10年ぶりに日本銀行の総裁が交代し新体制となりましたが、円安や物価高の要因とも囁かれている金融緩和と政策に方向転換があるのか、今後の動向を注視していく必要があります。

今後とも地域に根差した協同組合として組合員をはじめ地域の人々と共に歩み、「信頼・

利用・満足される J A」の経営理念を基に、役職員一丸となり、令和6年度の事業を進めていく所存でありますので、引き続き組合員の皆様のご協力をお願いいたします。

新年も天候に恵まれ、災害もなく、豊穰の秋を迎えることができますよう、併せて組合員ご家族の皆様のご健勝を祈念して新年のご挨拶といたします。



## 新年を迎えて

### 代表監事

新年あけましておめでとうございます。組合員とご家族には、健やかな新春をお迎えることと心よりお慶び申し上げます。また、組合員の皆様方には、日頃より当農協事業運営にご理解ご協力を賜り、感謝と御礼を申し上げます。

さて、令和5年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5月より「5類感染症」に移行され、以前の日常を取り戻しつつありますが、依然として農畜産物の消費は低迷しております。さらに、国際紛争や円安による生産資材費の高止まり、農業機械価格の高騰は、農業経営を大きく圧迫することが懸念されます。

営農を振り返りますと、雪解けが順調に進み春耕作業も天候に恵まれたことで滞りなく推移しました。小麦は干ばつ傾向の中、順調に生育が進み、例年になく早さで収穫が始まりましたが、豊作となりました。馬鈴薯や長いもにおいても計画以上の集荷をしています。一方で、猛暑の影響を受けた作物もあり、てん菜においては高温多湿による褐斑病が各地に広がり、低糖分での収穫となりました。豆類には品質低下が見られるなど厳しい作柄でした。

畜産においても、配合飼料の高騰、個体販売価格の下落が続きました。また、当初より需要減の影響から生乳生産抑制が推し進められておりましたが、7月下旬から続いた猛暑が要因で、暑さに弱いホルスタインは病気や食欲不振に陥り、乳量が大幅に減少するなど厳しさに追い打ちをかける形となりました。

農業情勢は、気候変動や国際紛争により世界の食料需給事情が一変し、輸出に制限をかけるなど、自国の食料を確保しようとする動きが各国において強まっております。このような状況を鑑み、J Aグループでは「国消国産」というテーマを掲げ、『国』民が必要として『消費』する食材は、可能な限りその『国』で生『産』する」との考え方を提起し、取り組みを進めているところです。

監事会においては、内部監査室と連携して経営全般の強化に取り組んでいきます。また、不祥事防止の観点からも、役職員との意思疎通を密に図り、コンプライアンスの徹底、内部統制の強化を進めてまいります。組合員各位におかれましても、引き続きご協力の程よろしくをお願いいたします。

本年も災害がなく、豊穰の出来秋を迎えることができますよう心からお祈りを申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



# 新年のご挨拶

## 青年部長

新年、明けましておめでとうございます。組合員の皆様をはじめ、JA役職員や各関連団体の皆様におかれましては、日頃より青年部活動に対して多大なるご支援ご協力を賜り、青年部を代表して深く感謝申し上げます。

昨年は、世界各地で異常気象や自然災害が発生し、「地球沸騰化」という言葉を見聞きするようになりました。皆様も営農のあらゆる局面において、その影響を感じたのではないのでしょうか。

当青年部は、十勝地区における青年部員の減少と物価高の影響を受け、盟友数当たりの負担金の増額を迫られることとなりました。また、当農協においては、生産者の高齢化に伴う後継者不足や戸数の減少により、様々な課題に直面しております。札内地域内の畑作経営においても、「安定した生産性、品質の向上とコスト削減」が求められ、アウトソーシング組織の強化が不可欠であると考えます。

さて、青年部活動に目を向けますと、今年度は新入部員2名を迎え入れ、7月にはパークゴルフ大会を開催し、多くの部員の出席と農協役職員の皆様との親睦を深めることができました。10月に開催した食育推進事業では、札内南小学校の3年生児童を対象に、ビートについての学習会を行いました。子供たちからは意欲的に学ぼうとする姿勢が見られ、青年部員にはコミュニケーションを図りながらそれに応えようとする姿がありました。子供たちからは想像もつかないような質問が多く寄せられ、彼らの感性や独創的な視点に感銘を受けたとともに、楽しげな様子が見られたことは、われわれ青年部にとっても大きな喜びとなりました。今後も食育活動を通して、次世代を担う子供たちへのアプローチを続けながら、地域の振興・発展に貢献してまいります。

本年も青年部員、そして農協役職員の皆様との懇親を深め、多くのことを学び実りのある活動にしていきたいと思えます。国民の食料を担っている自らの農業経営に誇りを持ち、食の安心・安全を目標に掲げた活動に力を入れていきたいと考えます。

最後になりましたが、皆様の1年のご多幸をお祈りし、新春のご挨拶とさせていただきます。



# 新年のご挨拶

## 女性部長

女性部、組合員、ご家族の皆様、新年あけましておめでとうございます。平素より女性部活動にご理解ご協力を賜り、ありがとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、女性部員のご協力をいただきながら事業計画に基づいた取り組みを進めることができました。また、部員数減少という問題を乗り越えるために、女性部の今後のあり方について検討を重ねた1年でもありました。

主な活動としては、7月上旬に下部組織合同パークゴルフ大会を計画しましたが、あいにくの天候によりパークゴルフは中止し、焼肉ガーデンまくべつにて交流会を行いました。中村組合長ならびに磯部女性部担当理事にもご参加をいただき、焼肉やビンゴゲームで大いに盛り上がりながら、終始和やかな雰囲気の中で交流することができました。7月中旬には、阿寒鶴雅リゾートにて1泊研修を実施し、温泉やバイキングを堪能しました。

女性部のあり方を検討する取り組みとしては、4月に下部組織を含めたアンケートを実施し、意見や考えを伺いました。それ以降も女性部員や役員会で、あらゆる選択肢について議論を重ねたほか、組合長や役員協議会を通して相談ならびに質問する機会を設けていただきました。そして、役員協議会における質問の回答を受けたことにより、改めて女性部員7名で方向性についての協議を行った結果、正式に存続していくことを確認しました。この間、組合長をはじめ役員の皆様、事務局の方々のお取り計らいにより、伝統ある札内農協女性部を休部することなく、部員数は少なくとも存続する結論に至ることができました。皆様方にお礼を申し上げます。組合員およびご家族の皆様、ぜひ女性部に入部をしていただき、活動を共に楽しめる仲間が1人でも増えてほしいと切に願っております。今後とも女性部活動にご理解ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、本年も組合員皆様のご健康で明るく過ごすことができる1年であることを願い、簡単措辞ではございますが新年のご挨拶とさせていただきます。

# 令和5年度新規就農者激励会

コロナ禍の影響で中止を余儀なくされた新規就農者激励会が11月29日に開催されました。

令和2年度以降に就農された11名が出席され、中村組合長、青年副部長、女性部長より激励の言葉が送られました。組合長からは今年度に就農された2名の方々に激励状が贈呈され、「身が引き締まる」と決意を新たにしました。

